

2021年度「社会研究の世界」 中間レポート・期末レポート 指定文献

1. 社会学・社会調査(菊谷)

◎入門 社会学的思考への招待

ジグムント・バウマン&ティム・メイ『社会学の考え方』(第2版) ちくま学芸文庫、2016年

C・ライト・ミルズ『社会学的想像力』ちくま学芸文庫、2016年

見田宗介『時間の比較社会学』岩波現代文庫、2003年

◎古典 社会学の古典から学ぶ

エミール・デュルケーム『社会学的方法の規準』講談社学術文庫、2018年

マックス・ヴェーバー『仕事としての学問 仕事としての政治』講談社学術文庫、2018年

◎研究の世界に足を踏み入れる

菊谷和宏『「社会」(コンヴィヴィアリティ)のない国、日本』講談社、2015年

安田雪『「つながり」を突き止めるー入門！ ネットワーク・サイエンス』光文社新書、2010年

上野千鶴子、2020、『近代家族の成立と終焉 新版』岩波現代文庫

江原由美子、2012、『自己決定権とジェンダー』岩波人文書セレクション

◎社会調査の切れ味を知る

ポール・ウィリス『ハマータウンの野郎ども』ちくま学芸文庫版、1998年

樋口直人・松谷満『3・11後の社会運動ー8万人のデータから分かったこと』筑摩選書、2020年

2. 国際社会学(小井土)

【一般的な教科書】

梶田孝道編『新・国際社会学』名古屋大学出版会、2005年

宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『国際社会学』有斐閣、2015年

【2年次以降の推奨文献】

小井土彰宏編『移民受け入れの国際社会学』名古屋大学出版会、2017年

森千香子『排除と抵抗の郊外——フランス(移民)集住地域の形成と変容』東京大学出版会、2016年

野宮大志郎・西城戸誠『サミット・プロテスト——グローバル化時代の社会運動』新泉社、2016年

樋口直人・稲葉奈々子ほか『国境を越える——滞日ムスリム移民の社会学』青弓社、2007年

町村敬志『越境者たちのロスアンゼルス』平凡社、1999年

吉野耕作『ナショナリズムの文化社会学——現代日本のアイデンティティの行方』名古屋大学出版会、1997年

3. 歴史社会(秋山)

E.H.カー『歴史とは何か』岩波新書、1962年

リン・ハント『グローバル時代の歴史学』岩波書店、2016年

大門正克『語る歴史、聞く歴史ーオーラルヒストリーの現場から』岩波新書、2017年

成田龍一『近現代日本史と歴史学ー書き替えられてきた過去』中公新書、2012年

渡辺尚志『百姓の力ー江戸時代から見える日本』角川ソフィア文庫、2015年

若尾政希『百姓一揆』岩波新書、2018年

貴堂嘉之『移民国家アメリカの歴史』岩波新書、2019年

中野聡『東南アジア占領と日本人ー帝国・日本の解体』岩波書店、2011年

秋山晋吾『姦通裁判ー18世紀トランシルヴァニアの村の世界』星海社新書、2018年

4. 文芸・言語・民族文化(中野)

- ヴァルター・ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」(1935-1936) 久保哲司訳(ヴァルター・ベンヤミン著、浅井健二郎編訳『ベンヤミン・コレクション1』、ちくま学芸文庫、1995年 所収)
- ロラン・バルト「作者の死」(1968) および「作品からテキストへ」(1971)(ロラン・バルト著、花輪光訳『物語の構造分析』、みすず書房、1979年 所収)
- 廣野由美子『批評理論入門——『フランケンシュタイン』解剖講義』中公新書、2005年
- 衣畑智秀(編)『基礎日本語学』、ひつじ書房、2019年
- 胎中千鶴『あなたとともに知る台湾—近現代の歴史と社会—』歴史総合パートナーズ6、清水書院、2019年

5 社会心理学(安川)

- 橋元良明『メディアと日本人:変わりゆく日常』岩波新書、2011年
- 小坂井 敏晶『社会心理学講義:〈閉ざされた社会〉と〈開かれた社会〉』筑摩選書、2013年
- 池田謙一『社会のイメージの心理学:ぼくらのリアリティはどう形成されるか』サイエンス社、2013年
- Ch. チャブリス & D. シモンズ(木村博江訳)『錯覚の科学』文春文庫、2014年
- 松田美佐『うわさとは何か: ネットで変容する「最も古いメディア」』中公新書、2014年
- 亀田達也『モラルの起源: 実験社会科学からの問い』岩波新書、2017年
- 木戸彩恵・サトウ タツヤ (編)『文化心理学: 理論・各論・方法論』ちとせプレス、2019年
- R.E.ニスベット(村本由紀子訳)『木を見る西洋人 森を見る東洋人: 思考の違いはいかにして生まれるか』ダイヤモンド社、2004年
- R.E.ニスベット & D.コーエン(石井敬子・結城雅樹編訳)『名誉と暴力: アメリカ南部の文化と心理』北大路書房、2009年

6. 社会地理学・地球科学・環境科学(上田・大坪・大瀧)

- 赤嶺 淳『グローバル社会を歩く—かわりの人間文化学』新泉社、2013年
- 上田 元『山の民の地域システム—タンザニア農村の場所・世帯・共同性』東北大学出版会、2011年
- ロビン・コーエン、ポール・ケネディ 山之内靖監訳『グローバル・ソシオロジー 格差と亀裂』平凡社、2000/2003年
- 同『グローバル・ソシオロジー ダイナミクスと挑戦』平凡社
- 佐藤寛編『フェアトレードを学ぶ人のために』世界思想社、2011年
- 佐藤寛、浜本篤史、佐野麻由子、滝村卓司編著『開発社会学を学ぶための60冊』明石書店、2015年
- 島田周平『現代アフリカ農村—変化を読む地域研究の試み—』古今書院、2007年
- 島田周平・上田元編『アフリカ』朝倉書店、2017年
- 内藤正典『イスラーム戦争の時代 暴力の連鎖を解くか』NHK ブックス、2006年
- ポール・ノックス、スティーヴン・ピンチ著 川口太郎他訳『都市社会地理学』古今書院、2009/2013年
- 村井吉敬『エビと日本人II—暮らしのなかのグローバル化』岩波書店(新書)、2007年
- ジョン・H・ヴァンダーミヤ&イヴェット・ペルフェクト『生物多様性<喪失>の真実—熱帯雨林破壊のポリティカル・エコロジー』みすず書房、2010年
- ジャレド・ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄』草思社文庫、2012年
- レイチェル・カーソン『沈黙の春』新潮文庫、1974年

7. 社会人類学(久保明)

- ジェームズ・フレーザー『初版 金枝篇(上・下)』筑摩書房、2003年
ブロンスワフ・マリノフスキ『西太平洋の遠洋航海者』講談社、2010年
クロード・レヴィ＝ストロース『月の裏側(日本文化への視角)』中央公論新社、2014年
クロード・レヴィ＝ストロース『火あぶりにされたサンタクロース』KADOKAWA、2016年
コリン・ターンブル『プリンジ・ヌガゲー食うものをくれ』筑摩書房、1974年
エドゥアルド・ヴィヴェイロス・デ カストロ『インディオの気まぐれな魂』水声社、2015年
ルース・ベネディクト『菊と刀——日本文化の型』講談社、2005年
アン・アリスン『菊とポケモン——グローバル化する日本の文化力』、2010年
磯野真穂『なぜふつうに食べられないのか：拒食と過食の文化人類学』春秋社、2015年
小川さやか『「その日暮らし」の人類学 もう一つの資本主義経済』光文社、2016年

8. 教育社会学(太田)

- ジャン＝ジャック・ルソー『エミール(上)(中)(下)』岩波文庫、1962・63・64年
イヴァン・イリッチ『脱学校の社会』東京創元社、1977年
フリップ・アリエス『〈子供〉の誕生—アンシャン・レジーム期の子供と家族生活』みすず書房、1980年
木村元『学校の戦後史』岩波新書、2015年
関啓子『多民族社会を生きる』新読書社、2002年
丸山英樹・太田美幸編『ノンフォーマル教育の可能性』新評論、2013年
山田肖子『国際協力と学校』創成社新書、2009年
浅井幸子ほか『教師の声を聴く 教職のジェンダー研究からフェミニズム教育学へ』学文社、2016年
R・P・ドーア『学歴社会 新しい文明病』岩波書店、2008年
竹内洋『日本のメリトクラシー増補版』東京大学出版会、2016年

9. スポーツ社会学(坂)

- A. ジンバリスト『オリンピック経済幻想論』ブックマン社、2016年
高津勝・尾崎正峰編『越境するスポーツ』創文企画、2006年
齊藤一彦・岡田千あき・鈴木直文編著『スポーツと国際協力』大修館書店、2015年
石坂友司・松林秀樹編著『〈オリンピック遺産〉の社会学』青弓社、2013年
坂上康博『スポーツと政治(日本史リブレット 58)』山川出版社、2001年
遠藤雅子『スペシャルオリンピックス』集英社新書、2004年
鷺田清一『ちぐはぐな身体』ちくま文庫、1995年
N, ホーンビイ『ぼくのプレミアライフ』新潮文庫、1992年
飯田貴子・井谷恵子『スポーツ・ジェンダー学への招待』明石書店、2004年
J. ピーパー『余暇と祝祭』講談社学術文庫、1988年
R.N. プロクター『健康帝国ナチス』草思社、2003年

10. 政治学(中北)

- ヴェーバー『職業としての政治』岩波文庫、1980年
杉田敦編『丸山眞男セレクション』平凡社ライブラリー、2010年
待鳥聡史『代議制民主主義』中公新書、2015年

水島治郎『ポピュリズムとは何か』中公新書、2016年
中北浩爾『自公政権とは何か』ちくま新書、2019年
前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書、2019年
竹中治堅『コロナ危機の政治』中公新書、2020年
田中拓道『リベラルとは何か』中公新書、2020年
宇野重規『民主主義とは何か』講談社現代新書、2020年
吉田徹『アフター・リベラル』講談社現代新書、2020年

11. 総合政策(堂免)

香取照幸『教養としての社会保障』東洋経済新報社、2017年
金子充『入門貧困論』明石書店、2017年
白波瀬達也『貧困と地域：あいりん地区から見る高齢化と孤立死』中公新書、2017年
橋本健二『新・日本の階級社会』講談社現代新書、2018年
吉原祥子『人口減少時代の土地問題：「所有者不明化」と相続、空き家、制度のゆくえ』中公新書、2017年
濱口桂一郎『若者と労働——「入社」の仕組みから解きほぐす』中央公論新社、2013年
広井良典『コミュニティを問いなおす——つながり・都市・日本社会の未来』筑摩書房、2009年
ガルブレイス『ゆたかな社会 決定版』岩波書店、2006年
フリードリッヒ・ハイエク 2016『隷従への道』日経BP社、2016年
岩田正美『社会的排除——参加の欠如・不確かな帰属』有斐閣、2008年

12. 哲学・社会思想史(井頭)

植村邦彦『市民社会とは何か』平凡社、2010年
米本昌平『バイオエシックス』講談社、1985年
齋藤純一『公共性』岩波書店、2000年
寄川条路編『グローバル・エシックス』ミネルヴァ書房、2009年
加藤尚武『現代倫理学入門』講談社、1997年
重田園江『社会契約論——ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』筑摩書房、2013年
ロイ・ポーター(見市雅俊訳)『啓蒙主義』岩波書店、2004年
香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2009年
馬淵浩二『貧困の倫理学』平凡社、2015年
柴田正良『ロボットの心——7つの哲学物語』講談社、2001年

13. 地球社会研究(多田)

地球社会研究専攻の各教員の本については、専攻ウェブサイトなどからさがしてみてください。

グローバル社会

シドニー・ミンツ『甘さと権力：砂糖が語る近代史』平凡社 1988年
今福龍太『クレオール主義』ちくま学芸文庫 2003年
サスキア・サッセン『グローバル・シティ』ちくま新書 2018年
伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何か——液状化する世界を読み解く』平凡社新書 2002年
エドワード・サイード『知識人とはなにか』平凡社 1998年
宮地尚子『トラウマ』岩波新書 2013 『環状島：トラウマの地政学』みすず書房 2007年